

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271300420		
法人名	有限会社 五葉会		
事業所名	グループホーム静豊庵	ユニット名	1ユニット
所在地	長崎県諫早市森山町慶師野778		
自己評価作成日	平成31年2月17日	評価結果市町村受理日	平成31年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	平成31年3月1日	評価確定日	平成31年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小高い丘の上に建ち、田園風景が見渡せ空気も澄んで気持ちよく生活ができる環境にあります。職員の年齢層も20代から70代まで幅広く、老若男女いろいろな会話が飛び交っています。笑顔と思いやりを大事に日々をすごしています。

“グループホーム静豊庵”は高谷にあり、ホームのリビングから森山町(小野平野、五ヶ原岳、多良岳)を一望できる。開設から17年を迎えており、グループホームとしての実績を着実に積み重ねてこられた。地域の“認知症について語る会「語るん場」”でも「認知症は特別な病ではない事や認知症の方への接し方、介護サービスの活用」などを積極的に情報提供すると共に、地域の「さくら祭り」や「寄らんね祭り」等に参加している。入居年数が長い方もおられ、車いすを利用する方々も増えており、ご利用者の横に座り、ゆっくりお話を増やしている。家族からも「ホームで暮らす中で穏やかな表情になり、会いに来るのが楽しみです」等のお言葉を頂き、職員も嬉しく思っている。施設長や次長、事務長は職員の体調管理も大切にされており、施設長は職員に「心にゆとり」「明るく元気に」「1日1笑」「自分を高めていきましょう」等の声かけをされている。今後も、ご利用者と家族、職員、地域の方々との笑顔が溢れるホーム運営を続けていく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議の時、全員で確認し共有している。	「和をもってふれあいの喜び 今を楽しく素敵に人生 笑顔とともに家族も安心」という理念であり、理念の中の「和」には、ご利用者、家族、職員と共に、地域の方々も含まれている。職員個々に「利用者と寄り添いたい」「レクを増やしたい」等の年間目標を作り、日々の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	気候のいい日には散歩に出かけ、出会った方たちとの会話を楽しんでいる。	保育園児がホーム周辺を散歩する時に手を振って下さる。小学生も訪問して下さり、ご利用者との会話を楽しまれている。町内の空き缶拾いや草刈り、交通安全旗振り当番も担い、町内の運動会の応援や町内のお祭り等に参加している。今後も年間の地域行事の一覧表を作成予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的には伝えられていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の暮らしぶり、事業所の実情報告をし参加者との意見交換の場となっている。	2か月に1回、開催している。参加者から“猪情報”やご自分の介護体験、他施設の情報も頂いている。ご利用者の暮らしぶりや入退院情報、災害対策、職員の研修受講状況等の報告と共に、身体拘束廃止委員会も同時開催している。	今後も保育園や小中学生等に「介護の仕事」を伝えていきたいと考えており、交流方法の検討を会議で行うと共に、地域の災害対策も検討しており、31年度は運営推進会議の機会に消防団等と一緒に訓練ができればと考えている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	協力関係が築ける様、情報交換等行っている。	「敬老の日」に諫早市から梨が届いている。30年11月に開催された諫早市主催の「第1回認知症SOS模擬訓練」に次長が参加し、運営推進会議で報告が行われた。幹部の方々が市役所(支所)を訪問し、事務的な手続きや報告・相談をしており、諫早市主催の各種研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ず、Y字ベルトを使用していたが、現在はしていない。その他の身体拘束も絶対行わないことを取り組んでいます。	運営推進会議の時に「身体拘束廃止委員会」を行い、ホーム内の取り組みを報告している。職員は身体拘束に関する研修に参加し、ホーム内での自主勉強も行われている。帰宅願望が聞かれる方は家族に相談し、家族と自宅に帰られる方もおられる。	今後もリハビリ職等との連携方法を模索し、詳細なアセスメントを行うと共に、転倒予防の対策(介護計画)に活かしていく予定である。身体拘束(拘束内容、記録の在り方等)の勉強会を再度行い、委員会でも報告予定である。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の情報が入る度に会議の中で虐待行為はしないことを再確認している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している利用者があるので制度を学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にしっかりと確認を取っている。改定の際は紙面にて理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望があれば、しっかりと対応している。	面会時や電話、メール等で家族と情報交換すると共に、手書きの手紙(毎月)とお便り(年6回)で暮らしぶりを報告している。家族から「職員の名前を知りたい」等の要望もあり、玄関に職員の写真と名前を貼る予定であり、土日のバス運行の要望もあり、運営推進会議等で要望を報告予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見等聞く機会は多く持っている。	日頃から運営者と職員の意見交換が行われている。月2回の職員会議で日々のケア内容や業務全般の話し合いが行われている。職員の意見も踏まえ、ユニット間の異動等の検討が行われた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の能力を活かし、やりがいをもって仕事に打ち込めるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議や研修を通して介護の質や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	諫早市のGH協議会の研修や集まりに参加し意見交換の場を設けている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して施設での生活が営めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や相談事に耳を傾け、信頼関係が築ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々に応じた支援を行える様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ができることを大事にし、一緒に生活を築けるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とともに利用者を支えていけるような関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人との関係が途絶えないようご家族にも協力をお願いしている。	生活歴などを伺っている。家族と一緒に自宅やお墓参りに行かれる方もおられ、同じ職場の方がホームに来て下さり、居室等で過ごされている。家族から手紙が届く方もおられ、ご本人に読んで差し上げている。今後も馴染みの場所などのドライブを企画する予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でいい関係が築ける様働きかけている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても関係が途切れない関係づくりをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを大事にする様努めている。	ご利用者との会話を大切にされており、ご本人の思いを引き出すように努めている。意思疎通が難しい方には田んぼを見て頂き、四季の生活を思い出して頂いたり、声かけを続けている。「家に帰りたい」と言う方もおられ、家族と一緒に自宅に行かれる方もおられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握に努め、なじみのある環境を壊さないように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしぶりを把握し、安心して生活できるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしい暮らしが続く介護計画となるよう努めている。	センター方式を活用しており、生活歴や認知能力などの記載を増やしている。計画作成担当者と各担当者が原案を作成し、ご利用者と家族の意向を基に職員全員で検討している。洗濯物畳みや皿拭き等の役割も盛り込まれている。	今後も心身の症状、ADL等の詳細な能力(できること・できそうなこと)・各活動の要望・介助の理由・BPSD症状と原因・解決策等を増やすと共に、課題分析シート(Eシート)や24時間のケア内容を日課表などに追記していく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしを、個々に記入し職員全体で把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応ができる様努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設での生活が安心できるものとなる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	安心して医療が受けられるように支援している	協力医療機関に受診して頂いているが、希望する医療機関を受診する事もできる。通院介助は職員が行い、受診結果は面会時や電話で家族に報告している。ホームの准看護師(2人)に相談でき、職員の安心になっている。主治医にも相談しやすく、24時間体制で往診に来て下さる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切な医療が受けられるように相談、助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院を目指し、また入院生活が不安にならないよう関係づくりに努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師の同席のもと、ご家族の意向を聞きながら支援している。	医師や看護師、家族と終末期の話し合いをしている。ご本人と家族が安心して過ごせる環境作りに努め、食事量に応じて甘酒等を準備したり、医師が毎日点滴に来て下さる。職員は微妙な体調変化に気づき、早期対応に繋げている。家族も訪問して下さり、職員と一緒に誠心誠意のケアが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の対応が全職員できるように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練は行っているものの、風水害時についての話し合いはよくしているが、訓練には至っていない。	30年9月は防災設備関係者と夜間想定訓練を行い、夜勤専門職員も参加している。31年3月は消防署職員と消防設備事業者と夜間想定訓練を行う予定である。煙を焚いての訓練であり、職員も緊張感を持った訓練にしていく予定である。30年は停電の経験もされており、災害に備えてガスコンロ、ろうそく、ランタン、2ℓの飲水(24本)、トイレ用雑水80ℓ、缶詰類(2日分を目途に)等を準備している。	

自己	外部	外部評価		
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉かけを心がけている	職員は“ご利用者に笑って欲しい”と願っており、ご利用者への楽しい声かけを心掛けている。代表も“ご利用者の立場になって考える”事を職員に伝えており、その方のペースや感情に応じた関わりを続けている。ご本人の希望に応じて同性介助も行われている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができる様支援している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースで、なるべくその日の暮らしができる様支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれができる様支援している	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味覚嗅覚視覚を通して、食事が楽しいものとなるよう支援している。	職員が毎日献立を考え、施設長(管理栄養士)が栄養バランス等を確認している。畑の野菜(大根等)も使用し、ご利用者も下ごしらえ(ツワの皮むき・もやしの根とり等)を手伝って下さり、「ぬっぺ」等の郷土料理も楽しまれている。介助量に応じて職員も一緒に食べる機会を増やす予定である。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、水分量に気をつけながら支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には磨き支援をしている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、日中はトイレにて排泄できる様支援している。	トイレでの座位や立位が困難で、ベッド上でおむつ交換をされる方もおられる。排泄感覚に応じたトイレ誘導を行う方もおられ、周囲に聞こえないように声かけしている。ご利用者個々にパットの必要性や大きさを検討しており、今後も排泄や入浴等の詳細なケアを介護計画に追記予定である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、運動、服薬も取り入れ便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	危険を伴う入浴なので、職員が手薄の時の時間帯ではなかなか希望を言われても出来ない。	毎月の入浴日を決めており、入浴日は4人体制にしている。入浴時間や入浴方法、異性による介助は大丈夫か等の希望を伺っている。体調に応じて2人介助も行われ、入浴を拒まれる時は馴染みの方から誘って頂く場合もある。入浴時は職員との会話を楽しまれ、柚子湯も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息の時間を大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人何の薬を服用しているか、何に気をつけなければいけないかの把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や、好きな事を把握し、役割をもってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族の協力を得ながら支援を行っている。	気候が良い日はホームの広い庭に出て、森山町を眺めたり、車いすで散歩している。車いすを利用する方も多く、全員での外出は難しい状況にあるが、季節に応じて花見(桜・つつじ)等にお連れしている。家族と一緒に自宅に帰られたり、お墓参りや外食に行かれる方もおられる。	今後も外庭で過ごす時間や散歩、四季折々の花見(秋桜等)と共に、馴染みの場所へのドライブなどを企画し、職員も一緒に楽しむ機会を増やしていきたいと考えている。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の理解ができておられる方には、所持してもらい安心してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字を書ける利用者の方には年賀状を自分で書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったりして、四季を感じてもらったり居心地よく過ごせるように支援しています。	リビングから森山町(小野平野、五ヶ原岳、多良岳)を一望でき、夏には花火大会を見る事ができる。リビングには大きな木が2階まで貫いており、ご利用者の身長なども「木」に貼られている。台所も一体化し、家庭的な雰囲気があり、調理の音や香りを楽しんでいる。適宜換気を行い、温湿度管理も続けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	横になりたい時は自室で過ごしてもらったり、一人一人の居場所を大事にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を一つでも持ってきていただくようにしている。	トイレ、洗面所付きの居室(各ユニット3部屋)とトイレなどが居室に無いタイプがある。居室の壁にケアプランを貼っており、使い慣れたタンスやソファ、写真、家族からの手紙、観葉植物、キーボードと共に、仏壇等を持ち込まれている。物の置き方や片付けの仕方もご本人の意思を大切にされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不安なく施設で自立した生活ができる様に支援している。		